

ほとけの子夏の集い

去る8月4日、蔵本通支坊で仏の子の集いが行われ、20名の参加者は、楽しく遊びながら大切な心を学びました。

残念なことに、今年も龍谷大学伝道部は来てくれませんでした。もたもたしていて準備が遅れ、開催も危ぶまれましたが、なんとか開催することができました。間際にご案内したにも関わらず、皆さんが声をかけてくださり、おかげでたくさん参加してくれました。

おつとめの後、今回の集いのテーマとして、お釈迦さまの言葉

「全てのは暴力に替えて、生命は愛しい。(他人をわが身に引き当てる、殺してはならない。殺させてはならない。）」



「赤い月の街」ポスターの一部。

を、皆で読んで、「相手の気持ちが分かるようになろう」とお話をしました。

その後は、地下光浄殿に移動、呉空襲の映画『赤い月の街』

街」を鑑賞しました。日本では、一九八〇年代に、アメリカ公文書館から映像フィルムを買い戻す10フィート運動が起こり、呉でも、一九八五年から二口千円の1フィート運動が起こりました。映像の足りないところは、法眼寺の

鑑賞後に、呉空襲と戦争に関する資料を見ながら、子供らと分かち合いをしました。参加した子どもが、「どうしてこんな気持ち悪い映画を見なければならぬの?」と質問。私自身、戦後豊かな時代に生まれ育ちましたので、学校の平和教育の時間に

黒田順良さんのステキな影絵でもないである、とても力が入った映画です。

鑑賞後に、呉空襲と戦争に関する資料を見ながら、子供らと分かち合いをしました。参加した子どもが、「どうしてこんな気持ち悪い映画を見なければならぬの?」と質問。私自身、戦後豊かな時代に生まれ育ちましたので、学校の平和教育の時間に

同様の印象を抱いていたことを思い出しました。しかし、今回そう言われてみて、それでもこの時間を持つことが大事に感じられている自分に気づきました。それは、単に皆で不快になるためになっているのではなく、この気持ち悪さ、悲しさ、恐ろしさこそが戦争なんだ、戦争とは、こういうものなんだということを多少なりとも知っておかねばならないと思っている自分です(ちなみに今学校では平和教育はほとんどありません)。

そこで、子供らには、「夏休みの終わりに、宿題が終わってなくて辛い思いをしたことがありますか?その辛かった思いを忘れると、また同じ失敗を繰り返すよね。だから、気持ち悪かったり、恐ろしいのは先生も嫌いだけ

「分かち合いの様子。」



ど、こんな気持ちになるんだということを感じることは大事なことだと思う」とお話をしました。

映画の後は、2チームに分かれて得点を競うゲームをしました。子供らが考えたチーム名は「イエローハット」と「勇者マサー」(意味不明)。

ただのゲームではなくて、カウンセリングのグループワークで使われるものもませ、遊ぶ

かき氷大会



びながら体験的に、協力し合うことの大切さ、相手の気持ちを考えることの大切さに気づく構成にしました。

お弁当の後、午後の部はかき氷大会。その後は呉シンネマに移動して映画。一手に分かれて『ポケモン』と『トイストーリー3』の好きな方をそれぞれ見ました。トイ・ストーリーの方は、図らずも今日のテーマと同じ「おもちゃの気持ちを考える話」だったようで、今回のテーマがいつそう深まったようでした。



先生の気持ちを考えるゲーム